



～ 高学年のみなさんへ ～ 2023



夏休みに この本を！

白井市立図書館

こきょう あじ うみ
故郷の味は海をこえて



やすだ なつき ちよ しゃしん
安田菜津紀／著・写真（ポプラ社）

戦争や厳しい現実と向き合い、国外へ逃れた人びとは「難民」とよばれます。日本で暮らす彼らの「故郷の味」とともに、それぞれの記憶、そして今を生きる姿が書かれています。報道で伝えられる「難民」「難民申請」「入国管理」などについて考える1冊です。

2023 高学年

こちらゆかいな窓ふき会社



ロアルド・ダール／作 クエンティン・ブレイク／絵
しみず たつや しみず なおこ ひょうろんしゃ
清水達也・清水奈緒子／訳（評論社）

ばくがお菓子屋をやりたいと思っていた空き家が、窓ふき会社になってしまいました。ペリカンのくちばしが「ばけつ」きりんが「はしご」さるが「窓ふき」をする、「はしご不要窓ふき会社」です。この会社の初めての仕事は窓が677個もある大金もちのハンプシャー公爵のお屋敷でした。

2023 高学年

せいぶつ き しま
生物の消えた島



たがわ ひでお まつおか たつひで ふくいんかんしょうてん
田川日出夫／文 松岡達英／絵（福音館書店）

1883年、スマトラとジャワの間にある小島クラカタウが大噴火しました。島の大部分は吹飛び、火山灰に埋り、死の世界と化しました。その後、島は少しずつ再生し、およそ100年にわたる調査が続きました。その過程を、白衣姿の博士が講義します。博士の足元には何やらしっぽのようなものがのぞいていますよ。

2023 高学年





トイレのおかげ



もりえだゆうじ
森枝雄司／写真・文 はらさんぺい／絵（福音館書店）

トイレは毎日使うところです。スペインではクリスマスに「ウンコ」をしている人形が売られています。昔のヨーロッパの都市では、窓からオシッコやウンチをすてていました。日本の江戸時代の町では畑の肥料として買いとってもらえました。世界には様々なトイレがあり、時代とともに変化してきました。

2023 高学年

ぼくの先生は東京湾



なかむらいくお
中村征夫／写真・文（フレーベル館）

東京、千葉、神奈川の3都県にかこまれた東京湾にはたくさんの生き物がいます。この姿を撮影し続ける写真家が、大都会の前に広がる東京湾の問題を提起します。この環境を守るために、わたしたちができることを考える写真絵本です。

2023 高学年



ほかにも読んでみよう！



『しずく的首飾り』	ジョーン・エイキン／作 ヤン・ピアンコフスキー／絵 猪熊葉子／訳	（岩波書店）
『ナタリーはひみつの作家』	アンドリュウ・クレメンツ／作 田中奈津子／訳 伊東美貴／絵	（講談社）
『名もなき花たちと』	小手鞠るい／著	（原書房）
『広島の木に会いに行く』	石田優子／著	（偕成社）
『本のれきし 5000 年』	辻村益朗／作	（福音館書店）
『みんなでつくる 1 本の辞書』	飯田朝子／文 寄藤文平／絵	（福音館書店）
『虫の目で狙う奇跡の一枚』	栗林慧／著	（金の星社）
『森はだれがつくったのだろう？』	ウィリアム・ジャスパソン／文 チャック・エッカート／絵 河合雅雄／訳	（童話屋）
『山をつくる』	菅聖子／文	（小峰書店）
『ユウキ』	伊藤遊／作 上出慎也／画	（福音館書店）

